開発 共に考え 共に歩む
OPMAC
MANAGEMENT: THE KEY TO DEVELOPMENT

OPMAC 株式会社

プロジェクトマネジメントで途上国の発展を支える



チュニジア「ボルジュ・セドリア・テクノパーク建設事業」の事後評価調査の際の写真

INFO

設立	1983 年
社員	18 人
本社	〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-3-3 三崎町三上ビル 4 階
Tel	03-6272-8161
Mail	opmacltd@opmac.co.jp

OPMACは、開発途上国で開発プロジェクトサイクル全体を支援するコンサルティング会社。1983年の設立以来40年以上にわたり、プロジェクトの形成、実施支援、モニタリング・評価まで、幅広い分野でサービスを提供している。

同社の理念は「Management：The key to development（マネジメントこそ開発の鍵）」。開発事業を成功に導くため、「マネジメント」の視点から支援し、途上国の現場で変化をもたらす「触媒」としての役割を担うことを目指す。長期的なビジョンの具体化に向けた中短期目標の方向づけ支援、内部・外部環境分析、組織運営、人材育成、調達支援、融資実行支援、モニタリング・評価など、多様な分野で途上国の行政機関や実施機関を支援。「共に考え、共に歩む」という信条のもと、持続的な発展を支える仕組みづくりに貢献している。

事業の対象地域はアジア、中近東、アフリカ、東欧、中南米など100カ国以上。JICA（国際協力機構）、JBIC（国際協力銀行）など国内外の機関と連携しながら、ODA（政府開発援助）事業に関する幅広い知見と実績を積み重ねている。

評価業務とアフリカ案件に注力

近年は民間連携、中小企業支援、貧困削減、環境社会配慮、生計向上などの分野にも積極的に取り組む。評価事業ではJICAによる新しい制度にもいち早く対応。海外投融資案件や技術協力プロジェクトの成果検証を実施するほか、事業効果の分析や評価手法の改善に向けた提言も行っている。アフリカ地域の案件にも注力しており、ボツワナでは中小企業振興のための金融支援事業の発掘・形成を手がけ、現地金融機関の環境・社会リスク管理体制の構築支援や調査業務を実施。

組織は少数精鋭で、多様な専門分野や経歴を持つコンサルタントが在籍し、プロジェクトごとのチームで課題解決に取り組む。近年はワークライフバランスも重視し、在宅勤務の活用やDXの推進など、働きやすい環境づくりに注力している。

Recruit 採用担当の声 Voice



代表取締役専務
中村 桐美 さん
Nakamura Hisami

成長を支える環境が整っています

OPMAC は大きな組織ではありませんが、その分、一人ひとりが幅広い業務に携わりながら成長できる環境です。コンサルタントとして実務経験がなくても、経験豊富なシニアコンサルタントによる OJT や研修、社内勉強会などを通じて、適性や興味に応じた専門性を身につけることができます。社内外や海外のエキスパートとチームを組んで仕事を進めることも多く、多様な価値観に触れながら成長する機会があります。異なる文化や考え方を尊重し、国際協力の現場で活躍したい方の挑戦をお待ちしています。

求める人物像
・チームで協力して成果を生み出せる
・課題を分析し解決策を考え行動できる

必要な能力や歓迎する資格
英語力（TOEIC860 点以上が望ましい）、修士または同等の学歴、社会人経験 5 年以上。援助機関での業務経験者は歓迎します。

VOICE

事業部 コンサルタント

大武 春菜 さん
Otake Haruna



持っている資格
評価士、国際社会科学修士

専門分野
事業評価、環境社会配慮
ガバナンス

1日のスケジュール

9:00 業務開始

9:30 現地調査
担当する金融機関に出向き、聞き取りや資料をもとに調査を行う

13:00 調査結果の整理・資料作成
調査内容のメモを整理し、報告書を作成する

14:30 現地調査
別の担当関係機関に出向き、調査を行う

16:00 関係者との打ち合わせ・オンライン会議
進捗状況の報告や相談、ラップアップを行う

17:00 業務終了

現在の仕事

ボツワナで環境社会配慮調査、ザンビアで技プロ

JICA 案件の調査・評価や技術協力プロジェクトに携わっています。ボツワナの中小企業振興のための金融支援事業で環境社会配慮を担当し、金融機関が適切な環境・社会管理体制を備えているかなどの調査を実施。ザンビアの橋梁維持管理プロジェクトのモニタリング・評価にも従事しています。

国際協力業界を選んだきっかけ

先輩から「向いているのでは」と言われたこと

大使館で専門調査員として働いていた時、先輩から「開発コンサルタントに向いているのでは」と言われたことがきっかけです。調査内容を報告書として整理し、社会に還元できる仕事に魅力を感じました。海外の現場に関わりながらも日本を拠点に働けるスタイルも、自分の志向に合うと感じ、この業界を志しました。

会社の魅力

意思決定が早く、柔軟な働き方ができる

社員一人ひとりの専門分野や経歴は多様ですが、仕事への考え方や価値観に共通点があり、安心して働ける環境です。意思決定が早く、良い提案はすぐに取り入れられる風土も魅力です。在宅勤務など柔軟な働き方を尊重する文化が根づいていて、長く働き続けられる環境だと感じています。

専門性の見つけ方・磨き方

まず挑戦し、経験から強みや専門性を見つける

与えられた仕事へ積極的に挑戦し、経験の幅を広げることが大切だと思います。私自身も環境社会配慮、評価、プロジェクト管理など、都度新しい分野の業務に関わる中で、自分の興味や強みが少しずつ見えてきました。最初から専門分野を決めず、多様な経験を積むことで将来の専門性が形づくられていくと思います。

学生のうちにやっておくべきこと

人との出会いや読書、突き詰める経験

さまざまな世代や立場の人と積極的に会い、話を聞くことです。自分が何に興味を持ち、何が得意で何が苦手なのかを知るきっかけになります。読書を通じて多様な価値観や感情に触れることも大切です。さらに、自分が好きだと思えることを見つけたら、とことん突き詰めて取り組む経験をしておくと良いと思います。

Career Path

30歳
行政の仕組みを内側から学びたいと考え、埼玉県庁に入庁。農業振興や医療機関での調達業務などに従事し、関係者との調整や実務経験を積んだ後、35 歳で OPMAC に転職

25歳
外務省の制度を利用し在ザンビア日本国大使館の専門調査員として赴任。約 3 年半、政治・経済分析や NGO 支援を担当。国際協力の現場を経験。開発コンサルに興味を持つ

22歳
上智大学在学中、スウェーデンへ交換留学。授業でアフリカの政治や社会に触れ、それまで抱いていたイメージが大きく変化し、アフリカに興味を持つきっかけになる